

麦・大豆産地生産性向上計画

南筑後産地

(作成主体:南筑後地域農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

みやま市と大牟田市からなる南筑後地域は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約54%を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、新規需要米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行していくとともに、単収の安定の実現を目指す。

現在、南筑後地域においては、水田フル活用ビジョン、第6次地域農業振興計画により水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

麦について、南筑後地域では大麦のはるしずく、小麦のシロガネコムギ、ミナミノカオリが作付けされており、全量(約7,400トン)が食用として、県内外の製粉企業に販売されている。近年麦の情勢は豊作状態であり、販売面で苦戦している状況である。特に大麦に関しては販売状況が苦戦しており、当産地のはるしずくについても、実需の要望を踏まえ、約280ha程度を供給が不足しているシロガネコムギ等へ切り替える必要がある。

大豆については、全量フクユタカを生産しており、県内外に出荷し豆乳、豆腐、納豆等に加工され販売されている。近年大豆の情勢は、気象的要因や湿害等による収量の低下で安定供給が達成できていない。市場における福岡県産大豆の需要は高く、取引額も高騰している。安定した供給を達成していくことが産地には求められている。

(2) 生産における現状と課題

麦に関しては近年豊作だが、引き続き適期播種、排水対策、土壌改良剤の投入を基本として収量向上に取り組む必要がある。

大豆に関しては気象的要因や地力の低下等により単収は低下傾向である。地力の低下に対しては土壌診断に基づく土壌改良剤の投入が必要である。排水対策としては、弾丸暗渠等を実施し湿害を防いでいく必要がある。また、部分浅耕播種や狭畦密植栽培といった効果的播種技術の導入により、大豆の生産性を高めていく必要がある。これらの生産性を高める取り組みにおいては、機械の導入も必要である。補助事業や農業者制度資金等を有効に活用しつつ機械導入を推進する。団地化に取り組むことで生産性向上を図る。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	シロガネコムギ	850	793	790	339	428	388	2,881	3,394	3,065
	ミナミノカオリ	270	233	263	343	427	363	926	994	954
大麦	はるしずく	937	929	1,014	281	342	333	2,632	3,177	3,376
作物計		2,057	1,955	2,067	313	387	358	6,439	7,565	7,395

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆	フクユタカ	808	762	720	147	90	111	1,187	685	799
作物計		808	762	720	147	90	111	1,187	685	799

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	シロガネコムギ	187	22.0%	179	22.6%	201	25.4%	
	ミナミノカオリ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	本品種のための4ha以上の団地はない
大麦	はるしずく	560	59.8%	618	66.5%	603	59.5%	
作物計		747	36.3%	797	40.8%	804	38.9%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	フクユタカ	149	18.4%	121	15.9%	111	15.4%	
作物計		149	18.4%	121	15.9%	111	15.4%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

団地の定義は、機構集積協力金交付事業における「まとまりのある団地」の定義に準ずる。
 団地の基準面積は4ha以上とする。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。